

宮医発第 900 号  
令和 3 年 8 月 23 日

郡 市 医 師 会 長 殿

公益社団法人 宮 城 県 医 師 会  
会 長 佐 藤 和 宏  
(公 印 省 略)

宮城県医療緊急事態宣言の発出について

現在、宮城県はステージ 4、感染爆発の段階であり、新規感染者数の増加に歯止めがかからず、医療提供体制は極めて切迫しています。

入院医療機関、ホテル療養を中心に患者の治療、療養に努めていますが、自宅療養者や入院調整中の方々も急増しております。これらの治療、療養に携わる医療従事者の疲弊はピークに達しています。私たち、宮城県医師会員も更なる協力を行うべきと考えて「宮城県医療緊急事態宣言」を発出します。

貴会管下、医師会員の皆様方、全員への連絡を何卒宜しくお願いします。

医師会員も、ワクチン接種や発熱外来での診察、検体採取などで多忙を極めています。しかし今は 3.11 と同等かそれ以上の「災害級」の医療危機的状況です。

県の方針などとも連動しながら、今後具体的なお願いをしていこうと思っております。宮城県医師会全員の協力で、この難局を乗り越りたいと思います。どうか、以上の事情をお汲み取り頂き、ご協力方宜しくお願い申し上げます。

担当：総務部総務課  
TEL 022-227-1591  
FAX 022-266-1480  
E-mail：mma@miyagi.med.or.jp

令和3年8月23日

宮城県医師会会員の先生方へ

宮城県医師会会長 佐藤 和宏  
仙台市医師会会長 安藤 健二郎

コロナ関連の診療検査、ワクチン接種等に更なるご協力のお願い  
(宮城県医療緊急事態宣言)

8月20日から、宮城県に蔓延防止等重点措置が適応され、該当地域は仙台市となりました。また8月18日の対策本部会議において、現在はステージ4（感染爆発）であるとされました。連日200名を越す新規感染者が報告されており、医療提供体制はひっ迫し、早晚、現在首都圏で起こっているような悲惨な状況が起こる可能性もあります。

会員の先生方には、ワクチン接種、発熱外来での診察、検体採取などで連日極めてご多忙のことと推察致します。ただ、自宅で経過観察中に予期せぬ急変などが起こる事を宮城県から出さないためには、会員の先生方の更なるご協力が必要と考えます。かく言う私（佐藤）自身、これ以上何をしなくてはならないのかと思うと茫然としますが、以下の点をご了解の上、現在はデルタ株との闘いの最中であり緊急事態であるという事を念頭に、ご協力願えれば誠に有難く存じます。

保健福祉部には以下の申し入れを行っています。

1. 更なるホテル療養ベッドの確保の検討（現在1,000ベッド、さらに200ベッド追加予定です）
2. 酸素ステーション、仮設診療所（病院）、いわゆる野戦病院の設置の検討
3. 自宅療養者の医療的支援方法の検討
4. その他

即ち今後の患者の急増に備えてあらゆる方法の検討をお願いしています。その場合、ハードは何とか準備できても、問題は医師、看護師などのソフト面の準備です。関係団体とも協議しますが、まずは、私たち医師会が主体となって行動したいと思えます。ワクチンの大規模接種会場には、当会の役員も出務しますし、ホテル療養管理にも出務し

ます。また従来より、仙台市医師会会員の先生方には、ご協力頂いておりますが、近隣の医師会にもこれらの事業に対する医師派遣を、私から直接お願いしました。仙台市は人口も多く、ここの感染者を抑えないと全県的にも拡大すると考えたからです。

県の方針が決まり次第、人的措置についてはまた具体的にお願いしますが、現在の状況をご理解いただき、更なるご協力を伏してお願いする次第です。

宮城県の新規感染者急増、ステージ4を受けて、「**宮城県医療緊急事態宣言**」を発出いたします。会員の先生方、ご協力の程、是非宜しくお願い致します。